

種名	ナ ツ ア カ ネ <u>Sympetrum darwinianum</u> 
分類	昆虫綱トンボ目トンボ科
俗称	夏に見られる茜色のトンボ。東北ではトウガラシトンボ、カミナリトンボなどと呼ばれる。
形態的な特徴	ナツアカネは体長38mm(腹長22～27mm、後翅長25～31mm)、未熟なうちは雌雄とも橙黄色の地に黒色の斑紋がある。成熟すると雄は赤みを増すが、ナツアカネは複眼も含めて体全体が真っ赤になる。幼虫の体長は、14～16mm(頭幅6mm)ほどである。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道では産地が限られるが、西日本では比較的普通に見られる。
繁殖行動	成虫は6月から12月頃まで見られる。羽化後も羽化水域からそれほど遠くない木立などに分散して生活する。雄は、成熟すると植物の先端に止まって縄張りを張り、雌を見つけるとただちに連結、交尾する。交尾後、雌雄は連結したまま稲穂など草丈数十cmの植物の上をすれすれに飛び、上空から卵をばらまきのようにして打空産卵をおこなう。秋に産卵された卵は、卵のまま越冬し翌春、孵化して幼虫となる。
生息場所	平地から低山地の草丈のあまり高くない挺水植物の繁茂する池沼や湿地、水田、溝などに生息する。しばしば、池やプールなどの人工的な環境でも見られる。水田地域だけでなく、市街地の学校のプールや人工的な小水域などの環境で生息できることから、都市部でもごく普通に見られ、個体数も比較的多い。
食性	
生息環境への配慮事項	卵は乾燥に強く、冬に水田の水がなくなるとも越冬できる。したがって、農地整備による乾田化の影響は比較的少ないと思われる。平地の水田地域、溜め池など浅く開放的な水域を好むため、水田や農業用溜め池の維持・保全が重要である
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	